

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点※	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 同志社大学の英語の大問構成にはここ数年大きな変化は見られない。I・IIは長文読解で英文の分量はどちらも3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致等があり、下線部和訳がI・IIどちらかにある。大問IIIは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。今年も、大問Iでは、1,000語を超える長文が出題され、今回の日程では、大問IとIIの読解問題の難度はやや高めであった。相当のスピードに加え、英文や設問を読み解く高い精度も要求される。		

※グローバル・コミュニケーション学部英語コース (英語重視型) は配点を 250 点満点に換算する。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「同じ単語でも解釈が人によって異なるのはなぜか」 ○ 語数：1009 語 (昨年) 1041 語	ある言葉が何を指すのかという解釈の違いがどのように生まれ、意志疎通の弊害となるのかについて述べた文章。話の流れが掴みにくく、内容一致問題がやや難解。語句整序も難しく、where 節の中にさらに the problems を先行詞とした関係節を作れるかが問われている。和訳の解答例は、the degree to which ~を間接疑問のように訳した。	やや難
II	長文読解 「能動的な休息の重要性とその方法」 ○ 語数：797 語 (昨年) 817 語	意識的に休息を取ることの重要性を説いた文章。Aの空所補充(Z)では、英文全体の構造を掴み、この段落で「休息」の具体的方法の最後の例が挙げられていることを理解する。Eの内容一致の選択肢5の Making は、分詞構文で「~すると」といった意味になる。	やや難
III	会話文 「図書館での缶詰の講義について」 ○ 語数：530 語 (昨年) 605 語	図書館での缶詰の講義について話し合う友人同士の会話。Aの空所補充(f)は、選択肢10を入れられそうだが、空所直前の仮定法の内容を裏返しの表現にした、「防災バッグを用意したことがない」という選択肢4の方が適切。Bの英訳の「思っている以上に興味深かった」は、(the lecture was) more interesting than expected などでも表せる。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問 番号	設問数	選択式						記述式				
		空所 補充	同義 選択	内容 把握	語句 整序	内容 一致	その他	和訳	英訳	自由 英作	内容 (理由) 説明	その他
I	6	3	8	4	1	3/8		1				
II	5	3	8	3	1	3/8						
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法

同志社大学の入試で高得点を取るためには、身につけるのに時間のかかる英文読解力をつけることが最も重要である。そのためには1学期のうちに、暗記ではなく理解を重視した、英文を読み書きするための文法を身につけよう。同時に毎日こつこつ辞書を使って時間をかけて英文を読む生活を始めるんだ。スピードを気にすると英文読解力はつかないよ。さらに短文中心の英作文の問題集も辞書を使いながら少しずつこなしていこう。市販の単語・熟語帳を使って毎日単語・熟語を覚えることも忘れずに。しかし重要なのはやはり英文読解だ。英語の勉強時間の大半を英文読解にかけよう。英文読解への取り組み方が合否を分ける。